

「学校教育デザイン」を描く①

これからの 学校教育目標の あり方

高校教育は、2020年度に現在のセンター試験に替わる「大学入学共通テスト（仮称）」の実施、
2022年度からは新学習指導要領が年次進行により実施と、大きな変化が続く。

今後、育成が求められるのは、各教科等の知識だけではなく、
その知識を活用しながら思考・判断・表現する力や、

そのような力を身につけるために学びに向かう力といった、資質・能力だ。

自校では、生徒にどのような資質・能力を育み、どのような教育課程を策定して、指導改善を図っていくのか、
その一連の過程をカリキュラム・マネジメントを通じて考え、実践することが、学校、教師に求められる。

本誌では、それを「学校教育デザイン」と名づけ、
その構築の提言と実現のポイントを4号にわたって発信していく。

1回目の今号では、「学校教育デザイン」とは何か、
そして、その構築の第一歩である、学校教育目標のあり方について考える。



みやしろ
埼玉県立宮代高校



山梨県立吉田高校

激変する社会環境・教育環境

- ◎AI（人工知能）の進化等による自動化・機械化、グローバル化、少子高齢化等の社会環境の急速な変化
- ◎それに伴う教育改革・入試改革の進展（2020年度「大学入学共通テスト（仮称）」の実施、2022年度からの新学習指導要領の実施）



学校教育に求められるのは、
これからの時代に必要となる**資質・能力の明確化**と、
それを育成する**指導の確立**

2020年度・22年度に向けて学校全体で今から取り組んでおきたいこと

【P.4～7】

- ① 学校教育目標（生徒に育む資質・能力）の確認と見直し、共有・浸透
- ② 育成を目指す資質・能力との関係を明確化した**カリキュラム（教育課程）**・指導計画の作成
- ③ 教育課程・指導計画に基づいた**授業・指導の実践**
- ④ 授業・指導の**評価・検証**
- ⑤ 評価・検証結果に基づいた**授業・指導の改善**

「カリキュラム・マネジメント」を通じて、①～⑤のプロセスに繰り返し取り組む



この営みを「**学校教育デザイン**」と名づけ、4号にわたって、
それを描くために必要な視点や具体的方策を発信

「学校教育デザイン」を描くための第1ステップ

学校教育目標の確認と見直し、共有・浸透

求められる視点

【P.8～9】

学校教育目標（生徒に育む資質・能力）は、

- ◎学習指導要領を受け止めつつ、校訓・校是、建学の精神、学校や地域が創り上げてきた文化（校風）など、教育の根幹である「不易」の視点と、社会の変化や地域の実情、生徒の姿といった「流行」の視点を踏まえて策定する。
- ◎管理職などの一部の教師だけでなく、全教師がかかわりながら策定し、それを学校全体はもちろん、地域や保護者とも共有する。また、多くの人が共感するようなメッセージ性を持ち、かつ、具体的で分かりやすい文言にする。さらに、策定した後も、生徒や地域、社会の変化を受け止めた不断の見直しが必要となる。

実践事例

山梨県立吉田高校 【P.10～13】

教育活動全般で育む
資質・能力を明示し、
生徒に高い自己肯定感を醸成する

埼玉県立宮代高校^{みやしろ} 【P.14～17】

教育スローガンを掲げ、
学校内外への浸透を図ることで、
目指す学校像を実現する